

平成 20 年 10 月 20 日

男鹿市長 佐藤 一 誠



平成 20 年 9 月 19 日付国道企第 37 号で依頼のありましたこのことについて、別紙のとおり回答します。

道路特定財源の恒久的法制化

平成 20 年 3 月の暫定税率期限切れのような事態が生じないよう恒久的な財源の確保と法制化が必要と思われる。

除雪費に対しての補助制度の創設

冬期の除雪費について、除雪機械の購入については補助制度があるが、豪雪になれば補助制度があるものの通常の除雪費は市町村の一般財源で賄われている。近年の人口減少と少子高齢化により住民の協力も得られにくくなっていることや、除排雪に対するニーズの多様化により経費も掛かり増しとなってきていることから、幹線市町村道や雪寒道路についてだけでも除雪費の補助制度や交付金の制度を創設して頂きたい。

地方の納税者の理解を得られる政策

自動車に依存する傾向の強い東北地方における市民生活の現状に鑑み、道路特定財源の取り扱いについては、地方の納税者の理解を得られるような政策決定をお願いしたい。

地方への財政支援額の確保と財源の充実強化

道路特定財源の見直しについては、地方の道路整備の必要性を十分考慮し、また道路特定財源からの歳入だけでは過去の道路整備の借金返済も含めた道路予算の 4 割にしか満たないことを踏まえ、これまで地方に配分されてきた以上の財政支援額を確保し、地方税財源の充実強化を図って頂きたい。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ②

②－１ 地域の現状と抱える課題

秋田県男鹿市

○現状

本市は平成 17 年 3 月に合併し誕生した市であり、新市の一体性および生活の利便性・安全性を確保するため、旧 2 市町を結ぶ路線や半島循環道路網の整備も求められており、また秋田市・能代市方面や秋田自動車道・日本海沿岸東北自動車道へのアクセス道路の整備や、観光・物流の拠点としての都市機能の強化も図らなければならない。

○課題

多様なニーズに対応するための財源の確保が不可欠である。

地方道路整備臨時交付金制度のさらなる拡充が望まれる。

②－２ 地域の目指すべき将来像

秋田県男鹿市

人と自然が共存する 暮らし潤う環境づくり

半島という地理的条件にあつて都市の一体性の確保と交通の利便性の向上を図るため、連続的で回遊性のある交通ネットワークの形成が必要であり、また各地域および主要施設間を結ぶ幹線道路の整備が求められている。

狭小路線の多い生活道路においては生活利便性の向上と同時に防災上の安全確保という視点からもその改良と維持管理が重要である。また、冬期間の安全で円滑な道路交通の確保のため、除雪対策も充実させなければならない。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

秋田県男鹿市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
高速交通ネットワークの充実を図るためのアクセス道の整備	飯の森渡部線道路改良事業	市街地等からのアクセス道路の整備により快適な交通ネットワークが構築され、併せて高速道路の利用率の向上が図られる。	
幹線道路整備による地域振興	なまはげライン舗装修繕事業	地域間格差が叫ばれる昨今において幹線道路の整備は地方にとって最も重要な課題であり、本市のような海岸部、山間部等多様な地形を有する地域では道路整備なくしては発展が望めないといっても過言ではない。幹線道路の整備により広域的アクセスも可能となり、本市の魅力ある観光地づくりによる地域振興が図られる。	
災害に強い道路整備	渡部 13 号線防雪柵設置事業	地震、津波、豪雨、豪雪等の災害時の避難や物流に支障がなくなる。	
安全・安心のための歩行者優先の空間ネットワークの整備	船越駅前踏切線道路改良事業	通学路の整備、バリアフリー化、良好な歩道空間の整備によりまちづくりと沿道環境の改善(騒音・大気等)が図られる。	